

中国の大学における視覚障害のある学生に対する 修学支援体制の現状と課題

○王 鑫

（筑波大学人間総合科学研究科）

竹田一則

（筑波大学人間系）

KEY WORDS: 中国の大学 視覚障害のある学生 修学支援体制

【目的】

2014 年、中国の視覚障害のある学生は初めて合理的配慮を利用し、点字テスト用紙で全国普通高等教育の統一試験（以下：高考）に参加できるようになった。2014 年から 2018 年の間中国全国は合計 23 名の視覚障害のある学生は高考が参加した。（Cai, 2018）「高考」に参加できるようになることは、学校数と専攻数だけ増やしただけではなく、高等教育を受ける範囲はキャリア教育をメインにする特殊教育学院から他の一般大学に広がったという意味もある。

視覚障害のある学生、特に点字使用学生は特殊教育学院（以下：SECM）の代わりに一般大学への進学する機会をもらえたとともに、一般大学方面には、これから視覚障害のある学生の受け入り態勢を作り、彼らの卒業までの支援活動の計画と準備をしなければならない。今後中国のインクルーシブ高等教育への質がある支援活動へ客観的根拠を提供するため、中国の全国の各大学の障害のある学生の支援体制と支援実施状況を把握するための資料を得ることは本研究の目的である。

【方法】

質問紙は先行研究（王・竹田, 2020）を参考にして作成した。視覚障害のある学生に接触経験が豊富な教師 2 名に予備調査を行った。中国の現状と合わない質問項目を修正した。本調査は、中国の視覚障害のある学生の支援団体 A に通じて、400 大学にデジタル版調査を行いました。108 校（27%）の回答を回収した。回答者は学校の管理職及び視覚障害のある学生の担当教職員であった。SECM の設立群と非設立群で χ^2 統計分析を行った。（倫理審査番号：筑 2019-160A）

【結果】

大学の性質：国立 11 校(10%)、省立 83 校(77%)、市立 13 校(12%)、民間 1 校(1%)であった。対象学校の特殊教育学院(SECM)の設置：あり 82 校(76%)、なし 26 校(24%)であった。在校学生人数:5000 人未満 46 校(43%)、5000 から 10000 人 11 校(9%)、10000 人以上 52 校(48%)であった。視覚障害のある学生の使用文字：点字 22 校(20%)、墨字 17 校(16%)、両方併用 59 校(45%)、不明 10 校(9%)であった。視覚障害のある学生の在籍状況:在籍あり 81 校(75%)、在籍なし 27 校(25%)であった。

視覚障害のある学生の支援状況について、視力ニーズに合わせる座席の配慮の支援(81%)は授業中支援の通常提供 1 位であった。点字試験用紙の提供(80%)は試験支援の 1 位であった。また、宿舍内の支援(75%)は授業外支援の通常提供 1 位であった。キャンパス内の点字ブロックの誘導(89%)は補助具及びバリアフリー施設支援の 1 位であった。各大学における支援課題は、情報バリアフリー(55 校)、学生の障害状況の把握(34 校)、校内支援システムの構築(32 校)、支援内容方面(28 校)は上位 3 つであった。

視覚障害学生の支援項目への提供可能性について SECM 設立群の SECM の非設立群に対する統計結果は、

以下の項目に有意差があった。

授業中について、「講義に関する配慮（録音許可、板書撮影許可等）」（ $\chi^2(1)=5.225, p<.05$ 、「板書の内容の説明」（ $\chi^2(1)=4.785, p<.05$ ）、「専用机・学習スペースの配慮」（ $\chi^2(1)=5.444, p<.05$ ）、「教材の点訳」（ $\chi^2(1)=5.564, p<.05$ ）の 3 つの項目には、SECM 設立群は SECM 非設立群より多かった。

試験について「点字試験用紙」（ $\chi^2(1)=6.909, p<.001$ ）、「拡大版試験用紙」（ $\chi^2(1)=6.265, p<.05$ ）の 2 つの項目には、SECM 設立群は SECM 非設立群より多かった。

授業外について、「宿舍内の生活の支援」（ $\chi^2(1)=8.173, p<.01$ ）、「就職支援」（ $\chi^2(1)=7.269, p<.01$ ）、「情報取得支援（行事案内、休講情報等）」（ $\chi^2(1)=6.496, p<.05$ ）、「図書館の利用支援」（ $\chi^2(1)=9.342, p<.01$ ）及び他の 4 つ項目には、SECM 設立群は SECM 非設立群より多かった。

補助具支援について、「キャンパス内の点字ブロックの誘導」（ $\chi^2(1)=13.399, p<.001$ ）、「スクリーンリーダー」（ $\chi^2(1)=8.520, p<.01$ ）、「点字プリンター」（ $\chi^2(1)=8.962, p<.01$ ）の 3 つの項目には、SECM 設立群は SECM 非設立群より多かった。

【考察】

本調査の結果により、中国の視覚障害のある学生と関連がある大学は、次の 2 つの特徴が見られた。まず、視覚障害のある学生を支援した経験を持つこの調査のほぼすべての学校は公立学校であった。次は、管理スタッフとボランティアの面で SECM の設立と非設立の間に大きな違いはなかった。全体的に見ると、多くの大学は視覚障害のある学生に対する積極的な支援態勢とが持っていることと SECM を設置する大学はよりも多くの支援項目を提供していることが示された。

（文献）

Cai, C. (2018) Understanding and Reflections on the Policy of “Reasonable Facility” for Visually Impaired Persons to Participate in the General College Entrance Examination —From the Perspective of the United Nations International Convention on the Rights of Persons with Disabilities. *Journal of Modern Special Education (Research in Higher Education)* 2018(14),42-47.

Japan Student Services Organization Fact-Finding Survey on Learning Support for Students with Disabilities. (View August 19 2020).

Wang, X. & Takeda, K. (2020) Research on campus activities and support needs of the college students with visual impairments in China [in Chinese]. *Disability Research*, 2, 66-74.

(WANG Xin , TAKEDA Kazunori)